

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 25 日現在

機関番号：34303

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24651288

研究課題名(和文)複合的マイノリティのアイデンティティ交渉—ジェンダー・エスニシティ・宗教のはざま

研究課題名(英文)Identity negotiation of multiple minority-In-Betweenness of Gender, Ethnicity and Religion

研究代表者

黒木 雅子 (Kuroki, Masako)

京都学園大学・人間文化学部・教授

研究者番号：20319437

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：平成24年、日本の複合マイノリティである在日韓国・朝鮮人女性との出会いを通して、キリスト教会での活動や問題などインフォーマルな情報収集を行い、ジェンダー、エスニシティ、キリスト教というカテゴリーだけでは括れない経験の多様性を確認した。

平成25年3月に「エスニシティ・ジェンダー・キリスト教と宗教」研究会をたちあげ、研究者による研究と社会変革のための実践の両者を視野に入れ、11回の発表を行った。その結果、新たな問題として経済格差があげられる。これら研究成果の一部は、京都学園大学出版助成を得て平成27年12月に出版予定。また研究会ではミクロネシアとアメリカから日系人研究者を招いて講演を行なった。

研究成果の概要(英文)：Visiting the church and exchanging the information with Korean women with the status of special permanent residents in Japan, I affirmed that the experience and identity of multiple minority cannot be fully understood by a single category of ethnicity, gender and religion but an intersectional analysis of those. We started a small study group in 2013 and met almost every other month till 2014 in order to explore diverse experiences and strategies of survival for multiple minorities. We also had lectures in 2014 given by the scholars from U.S. and Micronesia who had Japanese ancestors. As a part of research result of the study group, we plan to publish a book in December 2015, with a publication grant of Kyotogakuen University.

研究分野：複合新領域

キーワード：ジェンダー エスニシティ キリスト教 アイデンティティ 複合的マイノリティ ポスト植民地主義

## 1. 研究開始当初の背景

筆者は、1980年代と1990年代に行った日系アメリカ人女性の調査をもとに、彼女たちのアイデンティティ交渉を『女性学年報』(1986)や『社会学評論』(1999)において発表してきた。その後、日系アメリカ人を含めてアジア系アメリカ人女性を対象を広げ、ポストコロニアル研究、ジェンダー研究、フェミニスト神学の理論や成果を踏まえながら研究課題を発展させてきた。それが『混在するめぐみ—ポストコロニアル時代の宗教とフェミニズム』人文書院(2004)や「ポストコロニアル」『ジェンダーで学ぶ宗教学』世界思想社(2007)や「ジェンダー・エスニシティ・宗教との交渉—北米アジア系女性の複合的アイデンティティ」『政治的アイデンティティの人類学』昭和堂(2012)である。日本のジェンダー研究の分野では上野千鶴子の「複合差別論」や鄭暎恵の「複合的アイデンティティ」などあるものの、複数の差異と差別を扱った研究は多くない。そこで本研究は、アジア系アメリカ人女性のアイデンティティ交渉とサバイバル戦術を明らかにする。

## 2. 研究の目的

日本のジェンダー研究は、ジェンダーだけでなく差異の複数性と重層性に対して、どのように目を向けてきただろうか。これまでは、どちらかというところジェンダー、エスニシティ、セクシュアリティ、階級などが別々に扱われることが多かった。しかし、1980年代の「アイデンティティの政治」以降、「単一の主体の死」が言われるようになり、重層的、流動的、交差する複合的なアイデンティティが様々な研究分野や立場からなされてきた。本研究は、複数の差異のはざまに位置するアジア系アメリカ女性の複合的アイデンティティ交渉とサバイバル戦術を、ジェンダーやポストコロニアル・フェミニスト神学などの議論をふまえて検証する。これはアジア系アメリカ女性のみならず、日本のなかの複合的マ

イノリティにとって有効と考えられる、

## 3. 研究の方法

北米の複合的マイノリティのアイデンティティ交渉とサバイバル戦術をとらえる枠組みとして、ジェンダー研究、宗教研究、脱植民地研究および隣接分野の文献リサーチを行い、あわせて北米での宗教学会議や調査を通じて情報収集を行う。また、日本の複合的マイノリティと宗教に関わる研究者などのネットワークを通じ、研究会を計画する。

## 4. 研究成果

### 1. 平成24年度

(1) 平成24年(一年目)9月に、「複合的マイノリティのアイデンティティ交渉」という本研究目的のもと、在日大韓基督教大阪教会にて全国教会女性連合会主催の「ジェンダーの視点で読み解く女性問題」の講演を行った。準備段階およびその後は、エスニシティとジェンダーにおける日本の複合マイノリティである在日韓国・朝鮮人女性たちとの出会いを通して、彼女たちの教会での活動や抱える問題など、インフォーマルな情報収集を行った。そこでは、ジェンダー、エスニシティ、基督教(プロテスタント)というカテゴリーだけでは括れない差異の交差(intersectionality)とアイデンティティの重層性を確認することができた。

またエスニシティを優先し、ジェンダーが問題化されにくいエスニック・マイノリティ教会への不満は、90年代に筆者が北カリフォルニアでインタビュー調査をした日系アメリカ人女性たちの声と共通する部分がある。彼女たちのなかには、日系教会でエスニシティは満たされても、ジェンダーや宗教性は満たされないとして教会を離れる人もいた。では複合的マイノリティにはどのようなサバイバル戦術があるのだろうか。

(2) 10月に京都大学人文科学研究所主催の国際シンポジウム「人種神話を解体する」に

参加した。エスニシティと人種概念は歴史的、社会的コンテクストによって異なるので、両者の関係の再考が必要だという認識を得た。

(3) 11月にシカゴで開催されたアメリカ宗教学会(American Academy of Religion)の年次大会に参加し、フェミニスト神学やセクシュアリティの最近の研究や動向の情報を得た。なかでも1992年に刊行されたWomen's Bible Commentary(『女性たちの聖書注釈』)の改訂版(20周年記念版)が出され、編著者たちによる分科会は興味深いものであった。そこで、ジェンダー、エスニシティ、セクシュアリティにおける複合的マイノリティの研究がさらに進んでいることを確認した。

(4) 平成25年3月には、関西学院大学国際学部の李恩子氏とともに、「ジェンダー・エスニシティ・キリスト教と宗教」の研究会をたちあげ、研究者による研究だけでなく社会変革の実践も視野に入れて考察と検証をすすめていくことにした。

## 2. 平成25年度

(1) 平成25年3月に立ち上げた「ジェンダー・エスニシティ・キリスト教と宗教」研究会を、5月からほぼ2ヶ月ごとに研究会メンバーを中心に、全部で6回の研究発表を行った。平成25年度開催された研究の詳細は以下の通り。

### 第1回研究会

3月3日(日)午後2時~4時

梅田 関学サテライトキャンパス、  
李恩子氏(関西学院大学 国際学部准教授)

「聖書からみたジェンダー問題と人権概念」

### 第2回研究会

5月4日(土)午後3時半~5時半

梅田 関学サテライトキャンパス、  
「日本型多文化主義 - 多文化共生再考」  
李恩子氏(関西学院大学)

### 第3回研究会

7月15日(月)午後2時~5時半

梅田 関学サテライトキャンパス

「ひきこもりの調査より」

山田洋一氏(人民新聞 編集部)

### 第4回研究会

9月29日(日)午後3時~5時

梅田 関学サテライトキャンパス、

「介護あれこれ」

寺内真子氏(神戸YWCA 総幹事)

### 第5回研究会

11月17日(日)午後3時~5時

大阪YWCA

「南進論とミクロネシア」

黒木雅子氏(京都学園大学)

### 第6回研究会

1月26日(日)午後3時~5時

梅田 関学サテライトキャンパス、

「在韩国フィリピン人の社会関係について  
の一考察」

永田貴聖氏(立命館大学 専門研究員)

(2) 平成25年8月、チェコのプラハにあるコピリシ教会をたずね、日本語と韓国語礼拝に参加した。礼拝後、韓国女性たちの聞き取り調査を、韓国語から英語への通訳を通して行った。彼女たちの多くは配偶者や家族と一緒にチェコに移動した人たちであり、抱える問題も様々であった。また1960年代末、「ブラハの春」の後にチェコスロバキアに移住した日本人女性にも話を聞いた。

(3) 8月末にはチューク島(ミクロネシア)でフィールドワークを行った。ミクロネシアは、1941年から1944年まで国際連盟による日本の委任統治によって、行政、教育、経済開発、キリスト教布教、軍事などを目的として多くの人々が移動し、その割合は現地総人口の6割近くをしめた。今回の調査ではチューク島のキリスト教会や関係者を訪ねたが、人口の約2割と言われている日系人との出会いは実りあるものだった。平成26年には、このうちの一人、ミクロネシア州立短大学長を

招いての講演につながった。

(2) チューク島でのフィールドワークの成果は、11月の第5回研究会において「南進論とミクロネシア」と題して発表を行った。多くのアジア系アメリカ人と異なり、ミクロネシアの日系人の「混血」の人たちは現地の社会に同化して、別の集団をつくることはなかった。また、この発表をもとに『人間文化研究』32号で「ミクロネシアをめぐる人々の移動と日本の関与」として研究ノートをまとめた（平成26年3月発行）

(3) 9月にはハパ（マルティ・レイシャル・アジア系アメリカ人）ジャパンの後援会に参加した（京都大学 人文科学研究所主催）。アジア系アメリカ人のアイデンティティを考える上で重要なのが、1/3の男性と1/2の女性が異集団結婚という人口動態と結婚のデータである。白人と黒人の二極構造のはざままでアイデンティティはどう変わっていくのか、日系人とは誰のことか新たな「問い」が出される。

(4) 平成8年に出版した『異文化論への招待 - 違いからの自文化再発見』朱鷺書房を改訂し、平成26年3月に『異文化論への招待 - 違いとどう向き合うか』朱鷺書房を出版した。本研究助成によるデータ収集をもとに、初版本のデータ更新、「問い」の再設定と事項および人名索引を新たに加えた改訂版である。

### 3. 平成26年度

(1) 平成25年5月からスタートした「ジェンダー・エスニシティ・キリスト教と宗教」研究会は継続し、26年度は全6回開催した。そのうち2回は海外から日系人研究者を招いた講演を行った。チューク州立短期大学学長、Kinda Knemoto Kanto氏の「ミクロネシアと日本-過去、現在、未来」と、コロンビア大学のGary Okihiro氏の「アジア系アメリカ人史におけるエスニシティとジェンダー」

である。

研究会の詳細は以下の通り。

#### 第7回研究会

5月4日（日）午後3時～5時

梅田 関学サテライトキャンパス

「キリスト教と日本民族-キリスト教の名で語られるもの」

村山由美氏（名古屋商科大学非常勤講師）

#### 第8回研究会

7月4日（金）

京都学園大学

「ミクロネシアと日本：過去、現在、未来」  
Kind Kanemoto Kanto氏（ミクロネシア  
チューク州立短期大学学長）

#### 第9回研究会

7月13日（日）午後3時～5時

大阪YWCA

「日本・日本語・ジェンダー」

佐竹久仁子氏（姫路獨協大学非常勤講師）

#### 第10回研究会

9月21日（日）午後3時～5時

梅田 関学サテライトキャンパス

「新女界の思想-キリスト教と雑誌からみる大正時代」

村山由美氏（名古屋商科大学非常勤講師）

#### 第11回研究会

11月8日（土）午後3時～5時

梅田 関学サテライトキャンパス

「アジア系アメリカ人史におけるエスニシティとジェンダー」

Gary Okihiro氏コロンビア大学教授

(Professor of International and Public Affairs, Department of Social Formations) エスニシティ&人種研究センターの創設時ディレクター

村山由美氏（通訳）

『国家をこえて（仮称）』の出版にむけての打ち合わせ

平成27年1月25日（日）3時～5時

梅田 関学サテライトキャンパス

本研究成果は、京都学園大学出版助成を得て、平成 27 年 12 月に出版を予定している「ジェンダー・エスニシティ・キリスト教と宗教」研究会は平成 25 年から 26 年の 2 年間で全 11 回の研究発表、講演などを開催した。

(2) 8 月、ニューヨークで 100 年以上の歴史をもつバイリンガルの日米合同教会の日曜礼拝に 2 回出席した。礼拝後、日本語を母語とする戦後移住した 1 世女性たちに聞き取り調査を行った。また牧師への聞き取りを通して、彼が学んだ北カリフォルニアの神学校と所属教会が筆者と同じだったので、教会ネットワークなど実り多い情報交換をした。また NY 日米合同教会の近年の動向や課題などを聞くことができた。

(3) NY 市立大学 Queens College に Pyon Gap Min 教授をたずねた。教授は、韓国系アメリカ人コミュニティセンターのディレクターも行っており、その役割や働きについて、また日韓関係についての情報交換を行った。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- (1) 黒木雅子「『日系アメリカ人』の構築と変容-複合的マイノリティのサバイバル」『人間文化研究』査読なし、34 号、2015、19-32.
- (2) 黒木雅子「ミクロネシアをめぐる人々の移動と日本の関与」『人間文化研究』査読なし、32 号 2014.69-81
- (3) Masako Kuroki "Japanese American Women Negotiating Identities: In the Interstices of Ethnicity, Gender and Religion" *Legacy of Japanese Women: The Proceedings of U.S.-Japan Women Symposium 1&2* 北米エスニシティ研究会 2013.

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 4 件、うち 1 件は予定)

- (1) 黒木雅子 朱鷺書房 改訂版『異文化論への招待-「違い」とどう向き合うか』2014.
- (2) 黒木雅子「宗教：『混在するめぐみ』として」『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子、伊田久美子、熊安喜

美江編著 ミネルヴァ書房 2013、88-89.

- (3) N. Kawahashi, K. Komatsu and Masako Kuroki "Gendering Religious Studies: Reconstructing Religion and Gender Studies in Japan" in *Gender, Religion and Education in Chaotic Postmodern World*, eds. Zehavit Gross, Lynn Davies, Al-Khasaa Diab. Springer, 2013. 111-123.
- (4) 『国家を超えるとは(仮称)』黒木雅子編著 新幹社 2015.12 刊行予定

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://archive.kyotogakuen.ac.jp/artis-cms/cms-files/20140718-113425-3379.pdf>

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒木雅子 (Kuroki, Masako)  
京都学園大学 人間文化学部 教授  
研究者番号：20319437

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：